



水稲営農情報



水稲
吉田 義文
指導販売部
0969-22-1105

品質維持は水管理で

登熟を向上させるためには、根の老化を防ぎ、刈り取り直前まで活力を維持することが大切です。

そのため、間断かん水による水管理を励行しましょう。収穫前の早めの落水は、乳白・心白・腹白米や粒張り不足・胴割れ米の原因となり、品質や食味を落とします。

田んぼの排水路・排水溝を整備して、稲刈りに支障のない限り落水期は延長してください。(刈り取り5～7日前まで水田を乾かさないようにしてください。)

適期刈り取りの励行について

1穂初めの85%（籾黄化率）程度黄色く熟れる頃が収穫最適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっていることが多いので、注意が必要です。目安は出穂期（ほ場の40%程度出穂した日）から30日たった頃です。

病虫害防除

いもち病、カメムシの予防防除対策として出穂期と、穂揃い期の2回の防除を行ってください。散布の際は使用基準を遵守し、飛散等のないよう心がけてください。また、散布された際には、栽培管理台帳への記入をお願いします。

農薬の使用上の注意事項

農薬を使用する前には、ラベルの適用内容及び注意事項を必ず確認し、適切に使用してください。作業中は農薬マスク、手袋、防除衣など適切な保護具を着用して作業しましょう。

作物・営農・技術・資材などの情報をお届けします。



梅雨・夏場の飼料の取扱いについて



畜産
井上 正一
黒牛産肉検定センター
080-1729-1626

梅雨の湿度の高い時期・夏場の高温時期は飼料の変質(カビ・焼け等)が発生しやすい時期ですので、下記の事項に留意されますようにご注意ください。

- 1, バラ飼料についてはタンク内面に付着した飼料の有無を確認して、月に1度はタンク内の清掃を行い、なるだけ早めに給与するよう心掛けましょう。
- 2, 紙袋の保管は暑熱と湿気に注意し、床に直接置かず、必

- 3, 積んだ飼料が、熱を持っているようでしたら、上部と下部を積み替えるようにしましょう。
- 4, ねずみの発生も多くなります、紙袋の破損の被害が増えますので、駆除を心掛けましょう。
- 5, 在庫期間が長くなりそうな商品については、引取量を少なめにしましょう。



6月の柑橘園管理



果樹
原口 悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

6月は黒点病が付きやすい時期となりますので固着性展着剤のアピオンEを加用し、効果の高い防除を行いましょう。

1. 病虫害防除

項目	時期	対象病虫害	農薬名	希釈倍数	備考
温州 中晩柑	上旬 ～下旬	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	スプラサイド 乳剤40	1,500倍	混用
		黒点病	ジマンダイセン 水和剤	600倍	
		展着剤	アピオンE	1,000倍	加用
中旬		ミカンハダニ	ハーベストオイル	150倍	混用散布
		ミカンサビダニ	サンマイト水和剤	3,000倍	
下旬		黒点病	ジマンダイセン 水和剤	600倍	中晩柑のみ

※ハーベストオイルについては、落果の多い樹・樹勢低下樹には使用を控えてください。
※カイガラムシが多い園では、再度エルサン乳剤1,000倍を散布しましょう。

2. 葉面散布の実施

新梢の緑化の遅れは、生理落果の助長を招きます。緑化が遅れている園では、チッ素+マグネシウムの葉面散布で緑化促進を図りましょう。

目的	資材名	希釈倍数	備考
緑化促進	葉面マグ	200倍	混用散布
樹勢維持	尿素 又は アミノジューシーN14 又は 神協スピリッツ	500倍	
新梢充実	ジューシーカル	1,000倍	テコボン等

3. 施肥の実施

栽培タイプ	施用時期	品種名	肥料名	10a当たり 施用数
通常タイプ	6月上旬	ポンカン・清見 甘夏・河内晩柑 パール柑	熊本果樹肥料 10-7-4 又は ひのくに果樹 9-3-3	5袋
		テコボン	熊本テコボン 8-3-3	4袋

4. 粗摘果の実施

早期に摘果を行う事により、残った果実の肥大が促進されます。基本的には生理落果終了後から行いますが、極早生温州など収穫までの日数が短い品種では、2次落果期頃から摘果を行う事により肥大が促進されます。特に小玉の多い「肥のあかり」を中心に内成りや天成り果を早期に除去してください。

○薬剤摘果

生理落果期に摘果剤を使用する事で、早期にかつ省力的に摘果を行う事ができます。

特に早期摘果が難しい極早生温州やポンカンで使用し、一階級UPを目指しましょう。

使用薬剤：ターム水溶剤

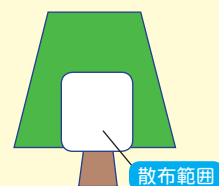
作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期	回数
温州みかん	摘果	1,000倍	生理落果期(満開10～40日後)	1回
かんきつ	摘果	1,000倍	生理落果期(満開10～50日後)	1回

※使用方法

- ①摘果効果は気温に左右されるので、25度程度の気温が2～3日続く日を選んで散布する。
- ②粗摘果目的で使用する場合は樹冠内部への散布を基本とし、散布液が飛散し過ぎないように散布圧力を調整して使用する。

※注意事項

- ①マシン油乳剤との近接散布に注意する。前後7日程度空けてから使用する。
- ②高温下(30℃以上)での散布又は散布後に高温が続くと過摘果になる場合があるので気象条件を見極めてから散布する。



5. タイベック被覆の実施(温州みかんのみ)

早期出荷や品質向上の為、タイベック被覆を実施しましょう。

品種	被覆時期
肥のあかり・豊福・肥のさやか	6月下旬～7月上旬
肥のあけほの・早生	7月中旬～8月中旬



甘長とうがらし今後の管理



野菜
平田 優輝
下島営農指導センター
080-1729-1639

追肥…収穫始めから行う。

※アサヒエース 10a 当たり 14～30kg
(10～14日の目安)
又は、液肥を500倍かん水する。

かん水…水分不足は品質に影響が出る為、こまめにかん水を行う。

※収穫期に水分が不足すると、果実肥大が悪くなる
ことがあり、曲がり果の原因になる。

整枝…主枝の4本は必ず残す。生育が旺盛になるにつれて中が込み合う場合は採光を考え間引き・摘芯する。

※日陰で果実が白くなりやすくなるため、光を十分当てる。

摘果…曲がり果等の不良果は早目に除去する。

※樹勢低下になりやすい。

ネット張り…2段目は1段目より40～50cmの高さにする。

※1段目は地面から70cm ぐらいの高さで張り、出来るだけ主枝4本を広げる。

斑点病対策…Zボルドーを500倍で散布する。

(混用はしない・果実の汚れに注意)

害虫対策…スタークル顆粒水溶剤 2000倍 前日まで

2回 スリップス

アフーム乳剤 2000倍 7日前まで

2回 オオタバコガ

モスピラン水溶剤 8000倍 前日まで

2回 アブラムシ類

尻腐れ対策…カルシウム剤の散布を行う。

(ジューシーカル・スイカル・エキカル等)を

500～1000倍で散布する。

白絹病対策…リゾレックス水和剤 1000倍 前日まで 2回